



第一一八号 令和五年五月十五日(月)発行

令和四年度総会開催される

一筆啓上・作左の会総会が、去る四月十六日(日)六ツ美西部学区こどもの家で開催されました。実施に当たっては、コロナ禍にあつて、収束に至つてないことを鑑み、安全に細心の注意をはらつての開催となりました。

総会では市川会長の挨拶に続き、令和四年度の事業報告及び決算報告などすべての議案が満場一致で議決されました。

役員の変更では、会長には引き続き市川真人氏、副会長に野田光宏氏、そしてもう一人の副会長の柵木喜幸氏は退任され、新たに法性寺一区総代の西島忠

夫氏、会計の城尾達広氏が退任され、赤渋二区総代柵木喜幸氏が新体制として承認されました。

会長の挨拶では、新型コロナウイルス感染症により中止となつていた「作左ゆかりの地研修旅行」として長篠城址史跡保存館他の勉強会を三年ぶりに実施出来たこと、また通年事業として予定していた行事を滞りなく実施出来たことに感謝の意を述べられました。

来賓には、衆議院議員 青山周平様、愛知県議会議員 新海正春様、岡崎市議会議員 廣重敦様はじめ多くの方々にご臨席を賜り

祝辞を頂きました。引き続きの講演会では、講師に、おかげさまで歴史教室主宰の市橋章男氏をお招きし、「三河一向一揆の社会的背景と三河武士たちの動き」をテーマにご講演を頂きました。次年度についても活動を続ける中で、新聞各社、メディアを活用して作左の会をアピールするとともに、各行事を通して相互の交流が図られるよう、また「作左の会」が継続的に発展して行く活動をして参ります。

*講演会内容の詳細については、「作左の会」ホームページに掲載してありますので是非ご覧ください。



作左の会 検索



市橋章男氏の講演会風景



総会会場風景

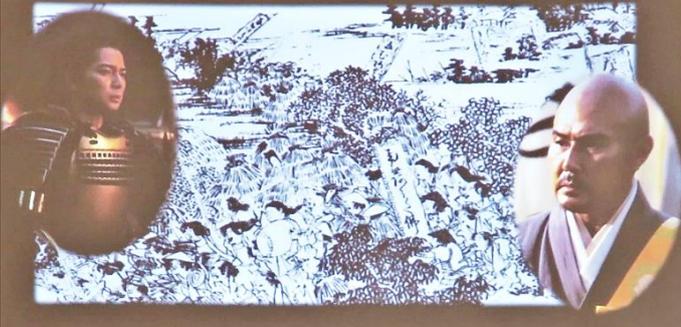
「三河一向一揆」

社会的背景 と 三河武士たちの動き

一筆啓上作左の会総会

講師 市橋 章男 氏

三河一向一揆の社会的背景と
三河武士たちの動き



◆講師プロフィール
1954年岡崎市生まれ。國學院大學で史学を専攻。新編岡崎市史調査員。教職員退職後、ふるさと岡崎にかかわる歴史・人物の著作活動を始める。

2005年、岡崎長善館で「おかざき塾歴史教室」を主宰開校。2017年、タニザワ大学研修センターで「岡崎ふるさと歴史講座」を開催。元二松学舎大学大学院研究員。全国歴史研究会特別会員。

- ◆いつもお呼びいただき大変嬉しく思っています。私は六ツ美西部小学校の開校時に赴任しました。懐かしい思い出です。「作左の会」も、六ツ美西部小学校の学芸会がきっかけで開校の少しあとに発足しています。その後、充実した活動をされていますが、それは会のパンフレットにも表れています。このパンフレットは、こういう会のものとしては全国的にもトップクラスだと思います。ぜひ、このパンフレット、そして会の活動をこれからも大切にしてくださいと思います。
- ◆今年は大河ドラマ「どうする家康」で盛り上がっていますが、残念ながら『作左』は出てきません。私はNHKに、「それはおかしい」と言っているのですが駄目でした。「三方原の戦い」にも『作左』は出てきませんが、本当は重要な働きをしているんです。パンフレットにも記載されていますが、戦いで奮戦しただけでなく、戦いの前に、いざというときに供え兵糧を浜松城に蓄えており家康を喜ばせたと言います。兵糧は戦いの勝敗を左右します。家康は兵糧（米倉）のあった所に作左の屋敷を作ることを許し、そこは城の守りの重要な場所ともなり「作左曲輪」と呼ばれていました。

原文 “一筆申す 火の用心 おせん瘦(や)さすな 馬肥やせ かしく”

- ◆ドラマを契機に「徳川実記（東照宮御実紀）」を読み返しました。作左の手紙は“一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ”ということで広まっていますが、実記には、原文が「おせん瘦(や)さすな」だとなっています。“泣かすな”で定着していますからそれでいいですが、史料を詳しく見ると、いろいろな発見があります。
- ◆プロジェクター画面の左は、家康役の松本潤、右は本證寺住職・空誓役の市川右團次です。一向一揆の時の実際の年齢は、家康；22才、空誓；19才です。大分感じが違いますね。2人は一揆で対峙しましたが、その後仲良くなります。いずれにしろ、大河ドラマに作左が出てこないのは、NHKの失敗です。

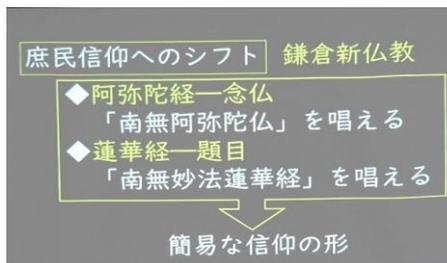


一向一揆の背景

○浄土真宗はなぜ急速に人々に支持されたのか？

(西三河にはなぜ浄土真宗が多いのか)

- ◆奈良時代の終わりに即位した桓武天皇は、奈良仏教が力強くなりすぎたのを嫌い、都を移しました(→長岡京→平安京)。奈良に、巨大寺院を置き去りにしてきたのです。
- ◆その後、桓武天皇・嵯峨天皇は奈良仏教に対抗しうる



作左の会

検索



一筆啓上・作左の会

続き(全文)はホームページをご覧ください。

<http://sakuza.g1.xrea.com/>